

交通ルールは誰のために

みんな



まもなく暖かい春を迎え、市内では今年約1,650人の子どもたちが小学校に入学します。お父さん、お母さんなど保護者の方はもちろん、周りの大人たちも交通安全に気を配っていかねばなりません。ドライバーの皆さんは、運転中、他の事に気をとられ注意を怠っていませんか、スピードを出し過ぎてはいませんか。でも、交通事故はドライバーの過失だけではありません。歩行者の不注意もあります。道路を横断するとき、必ず横断歩道を渡っていますか、停車中の車の前後から道路を渡っていませんか。悲惨な交通事故に遭わないため、そして起こさないためには何に気をつけたらよいのか、改めて考えてみましょう。

詳細 交通安全主幹 ☎③287

横断歩道を渡るときは、3つの約束を守ってね!

- ①止まりましょう
信号が青でも、車が来ていなくても、横断歩道では必ず止まりましょう
- ②右、左、もう一度右、よく見ましょう
車が来ていないかよく確かめて渡りましょう
- ③待ちましょう
青信号がちかちかしていたら、次の青信号まで待ちましょう。信号機の無い所では、車が行ってしまうまで待ちましょう

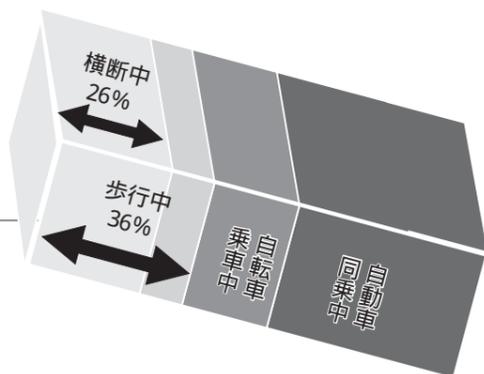


年長さんも、もうすぐ小学生。地域の皆さんは、子どもたちに声をかけて……



学校法人勇弘学園勇弘幼稚園
まつき ひでお
松木秀夫 園長

現在四十四人の園児が通園しており、この春、十六人が小学校に入学します。勇弘地区は市内に比べ一般車両の交通量は多くはありませんが、ダンブカーなど大型車両の走行が目につきます。地域の交通安全の取り組みは、勇弘地区交通安全母の会で、小学生以下を対象に自転車教室などを開いております。また、地元の方や企業の皆さん方が沿道の草刈をして、見通しをよくするなど活動をしていただいております。幼稚園でも、年三回、市交通指導員による安全教室を実施しています。日ごろから、地域の皆さんが連携して交通安全運動に取り組んでいただくことが、交通事故を無くしていくと強く感じております。何よりも、地域の大人たちが通園、通学している子どもたちに積極的に声をかけて、見守っていただきたいと思います。



幼児の交通事故では「歩行中」、中でも「横断中」の事故が多い特徴があります

6歳以下の状態別事故死傷者数調べ
(全国過去3年間の平均概数)

交通安全教室で、ルールの大切さを学びます



市には交通指導員が十一人います。保育園、幼稚園、小学校のほか、老人クラブや町内会などを訪問し、交通安全教室を年間五百回近く開催して、交通ルールの大切さを教えています。紙芝居やパネル、着ぐるみ、ミニ信号、横断紙など、手づくりの教材を使い、子どもたちにもわかりやすいように工夫を凝らして指導に当たっています。勇弘幼稚園で開催された安全教室では、交通ルールを守らず、事故に遭いそうになった子どもの紙芝居を見せ、園児たちはルールの大切さを学びました。続いてミニ信号を使って、横断歩道を渡る練習をしました。横断歩道を渡る時の約束を思い出しなが、着ぐるみを着た指導員と手をつなぎ、慎重に渡りました。左右の安全確認を忘れてしまう子どももいて、交通指導員がやさしく注意していました。今春、小学校に入学する園児は、特に一人でミニ信号機のある横断歩道と信号機のない横断歩道を渡る練習をしました。園児たちは、指導員の指示に従って、繰り返し右、左、もう一度右を確認していました。